

## 平成29年度障害者支援施設「高井田苑」事業報告

はじめに

高井田苑では、利用者一人ひとりが個人として尊重され、健康で安心・安全な生活を送ることのできるよう工夫に努めた。

利用者一人ひとりの障がい特性を理解し、個別支援計画のもとそれぞれの個性を尊重した支援のありようを実践した。

可能な限り合理的配慮に基づき、環境要因である環境整備及び支援スキルの向上に努めた。

### I 利用者支援状況

#### 1 利用者状況について(表1・2・3参照 平成30年3月31日現在)

生活介護(定員52名)～利用者数：48名(男性33名、女性16名)

施設入所支援(定員40名)～利用者数：38名(男性28名、女性10名)

○生活介護の利用者の年齢は、25歳から64歳までの方が利用している。

平均年齢は男性の平均年齢：40.6歳、女性の平均年齢：46.2歳。

○施設入所支援の利用者の年齢は、25歳から62歳までの方が利用。

平均年齢は男性：40.7歳、女性：46歳。

#### 平成29年度 年齢別・障害支援区分別

利用者状況(生活介護) (表-1)

	男 性				女 性				
	区分3	区分4	区分5	区分6	区分3	区分4	区分5	区分6	
20歳～24歳									
25歳～29歳			1	1	1				3
30歳～34歳			1						1
<b>35歳～39歳</b>			<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>		<b>8</b>
<b>40歳～44歳</b>		<b>2</b>	<b>4</b>	<b>7</b>	<b>1</b>				<b>14</b>
<b>45歳～49歳</b>		<b>1</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>1</b>		<b>3</b>		<b>14</b>
50歳～54歳		1						1	2
55歳～59歳		1						1	2
60歳以上		1					1	2	4
合計	0	6	13	14	2	2	2	9	48

平成29年度実施機関別・障害支援区分別利用者数 (表-3)

	援護の実施機関	男	女	計	施設入所 支援	共同生活 援助	生活介護 (日中活動)	障害支援区分				
								2	3	4	5	6
1	柏原市	14	4	18	11	7	16	1	1	10	6	
2	羽曳野市	1		1	1		1					1
3	藤井寺市	1	1	2	2		2					2
4	八尾市	3	4	7	4	3	7				1	6
5	東大阪市	3	3	6	6		6				1	5
6	大東市	1		1	1		1				1	
7	寝屋川市	2		2	2		2					2
8	守口市		1	1	1		1				1	
9	茨木市	2		2	2		2				1	1
10	箕面市		1	1	1		1					1
11	高槻市	1		1	1		1					1
12	交野市		1	1	0	1	1		1			
13	枚方市		1	1	1		1				1	
14	堺市	2		2	2		2				1	1
15	泉大津市	1		1	1		1			1		
16	太子町	1		1	1		1				1	
17	大阪市	1		1	1		1					1
18	松原市	1		1		1	1				1	
	合計	34	16	50	38	12	50	1	2	11	15	21

2 日 課 (下記の日課を基本として支援を行った。)

(午 前)	(午 後)
6:30 起床・洗面	13:00 作業活動
7:30 朝食・歯磨き	14:30 作業活動終了
8:30 コーヒータイム	15:00 間食
9:30 朝のつどい (1日の流れを説明) ・散歩など個別活動 ・作業	16:00 入浴 整理・片付け
12:00 昼食・歯磨き	18:00 夕食・歯磨き 余暇時間・コーヒータイム
	22:00 就寝

○第2・第4週の土曜日と日曜日・祝日は作業を行わず、散歩、外出支援等を行った。

### 3 作業活動

○生活班・軽作業班・リサイクル班・農耕班の4班及び従たる事業所である「すてっぷ」で作業を中心に支援をした。

○生活班・軽作業班・リサイクル班・農耕班は午後からの作業に全利用者が参加し、農耕班・軽作業班・リサイクル班の一部の利用者については午前中の作業にも取り組んだ。

○「すてっぷ」は、平日と第1・3・5の土曜日の午前9時30分から午後3時まで作業を行った。

○男性1名は、平日の午前中、児童養護施設武田塾の便所の清掃に取り組んだ。

○作業工賃は工賃規程に基づき毎月利用者に支払った。  
年間(1人につき)：平均 約26,000円である。

#### (1) 農耕班

①職員体制 担当職員：4名

②利用者 男性利用者：5名 女性利用者：1名 計6名

##### ③作業内容

ア 敷地内での野菜作り

それに伴う作業（開墾、堆肥づくり、種まき・水やり・植付け・草抜き・収穫・袋詰めなど）

イ 地域（柏原市役所・市内弁当屋・KSR関係事業所等）、高井田苑内での販売  
ウその他～不定期に開催されるイベントへの参加・販売～

工収穫物：ピーマン、オクラ、ナスビ、チンゲン菜、ネギ、水菜、春菊、ワケギ、  
ジャガイモ、さつまいも、ふき 等

#### (2) リサイクル班

①職員体制 担当職員：4名

②利用者 男性利用者：8名 女性利用者：2名 計10名

##### ③作業内容

地域(芝山住宅等)からアルミ缶の回収を行う。⇒回収した缶を潰し、業者に買い取ってもら  
うまでの作業（缶を洗う・プルトップを外す・並べる・潰す）を分担して行う。⇒利用者一  
人ひとりの役割と場所の確保を行い、落ち着いた作業環境づくりを行う。

##### ④課題

アルミ缶の回収量が減り、缶の在庫がなくなってきたため、違う作業を提供する  
必要があった。

#### (3) 軽作業班

①職員体制 担当職員：4名

②利用者 男性利用者：2名 女性利用者：3名 計5名

③作業内容

- ア 企業からの受注作業。(一部の利用者のみ)
- イ 利用者の能力に合わせた作業提供。(作業量の調整や種類を増やす)
- ウ 生産能力の開発を目指した個別課題の提供。
- エ タイマーを使って、作業の量と時間を調整している。

④課題

- ア 個別課題から生産性のある作業に移行を進めていく。
- イ 作業の種類を増やしていく。

(4) 生活班(1階)

①職員体制 担当職員：4名

②利用者 男性利用者：1名 女性利用者：6名 計7名

③作業内容

- ア 企業からの受注作業(一部の利用者のみ)
- イ 身体機能の維持を目的とした散歩や縄跳びなど、体を動かす活動を取り入れている。
- ウ 自立課題や作業に取り組むために、一部の利用者は手指の機能維持に努めた。

④課題

- ア 作業場所と生活空間の分離。
- イ より多くの利用者に対して生産性のある作業を提供する。
- ウ 作業工賃をわかりやすい形で示し、作業のモチベーションに繋げる。

(5) 生活班(2階)

①職員体制 担当職員：7名

②利用者 男性利用者：11名

③作業内容

- ア 企業からの受注作業。(6社からの受注を受ける)  
ねじの袋わけ、教材のパッケージングなど多岐にわたる。
- イ 障がい特性に配慮したわかりやすい作業の提供を行い、重度の障がいのある方にも生産性のある活動を提供できた。
- ウ 金曜日には作業工賃で利用者とお菓子等の購入を行い、1週間の作業を労った。

④課題

すてっぷ・軽作業班と連携して新たな企業開拓を行い、作業収益向上を計る。

(6) すてっぷ

①職員体制 担当職員：3名

②利用者 高井田苑から男性利用者:2名(うち1名は週3日)、女性利用者:1名  
グループホームより、男性利用者:3名、女性利用者:3名 計10名

③作業内容

- ア 企業からの受注作業(6社からの受注を受ける)  
ねじの袋わけ、教材のパッケージングなど多岐にわたる。

- イ 健康維持のための散歩やストレッチの取り入れ。
- ウ 作業工賃を使つての買い物支援。
- エ 自立生活のための勉強会を実施し、利用者の自己決定を促す支援を行つてきた。
- オ 利用者自身が働いて得た工賃を使つて、新たな経験や社会資源の活用をしてもらうことで、作業に対するモチベーションをあげる。
- カ 作業内容やその提供の方法・時間なども再度検討する。

平成 28.29 年度別作業収益比較表

	農耕	刈刈	軽作業	生活	すてっぷ	その他	計
28 年度	221,936	440,882	323,420	319,193	1,146,703	3,500	2,455,634
29 年度	136,599	445,724	295,044	379,002	1,243,412	4,400	2,504,181

#### 4 行 事

平成 29 年度の行事計画は、個別ニーズに基づいた小集団での行事を基本とした。

日 時	行 事 内 容	参 加 者 数
5 月 14 日 (日)	高井田苑祭	200 名
5 月 27 日 (土)	大阪府障がい者スポーツ大会	2 名
6 月 14 日 (水)	ららぼーと (日帰り旅行)	4 名、家族 3 名
6 月 23 日 (金)	KSR ボーリング大会	6 名
7 月 5 日 (水)	エキスポシティ (日帰り旅行)	4 名、家族 1 名
7 月 12 日 (水)	オービィ大阪	3 名
7 月 29 日 (土)	武田塾納涼祭	48 名、家族 11 家族
8 月 25 日 (金)	夏祭り	38 名
9 月 6 日 (木)	自然の森ファミリーオートキャンプ場 (日帰り旅行)	5 名、家族 2 名
9 月 16 日 (土)	懇親会	48 名、家族 20 名
10 月 6 日 (金) ~ 10 月 7 日 (土)	京都タワー、石長松菊園、京都競馬場	12 名
10 月 18 日 (水)	ひらかたパーク (日帰り旅行)	5 名、家族 4 名
10 月 21 日 (土)	スポーツフェスタ 2017 大阪	12 名、家族 3 名
11 月 8 日 (水) ~ 11 月 9 日 (木)	ユニバーサルスタジオジャパン (1 泊旅行)	7 名
11 月 26 日 (日)	大掃除	36 名、家族 28 名
11 月 26 日 (日)	焼き芋大会	35 名
11 月 27 日 (月)	陶芸教室	3 名

12月23日(土)	クリスマスパーティー	40名
1月5日(金)	すてっぷ初詣	10名
1月17日(水)	神戸動物王国	4名
2月14日(水)	大阪市科学館(日帰り旅行)	5名
3月24日(土)	花見大会	38名

○作業終了後や休日は近隣のコンビニ等への個別外出も行った。

## 5 自治会活動

利用者自治会の会議を月1回開催し、利用者から出た行事や食事に対する意見等を支援に反映させた。

## 6 健康管理

定期健康診断を年2回、歯科健診を年1回実施、インフルエンザの予防接種を11月に実施した。

また、月1回の体重測定を実施し、地域の医療機関と連携を取りながら、健康管理に努めた。

## 7 栄養管理

給食は日清医療食品(株)に業務委託した。日々の食事の様子、給食会議、嗜好調査等をとおり、利用者の希望が反映できるよう食事サービスに努めた。

また管理栄養士による栄養マネジメントを行い、個々の栄養状態、身体状況を把握し、健康状態の維持、向上に努めた。

## 8 安全管理

平成29年9月と30年3月の2回、利用者、職員が参加し、避難訓練を実施した。

3月は、柏羽藤消防署員立ち合いで避難訓練を行うとともに、訓練後は消火器による消火訓練、心肺蘇生法及びAEDの実地講習を実施した。

## 9 家族会との連携

家族会定例会(偶数月の第4日曜日)に施設長が出席し、家族との意見交換をした。家族からの意見等を施設運営の参考とした。

## II 職員体制

### 1 職員数

職名	施設長	サービス管理責任者	生活支援員	栄養士	夜勤専任支援員	看護師	事務員	その他	合計
常勤	1	1	21	1		1	3		28
非常勤			12		3			1	16

## 2 会議の状況

会議名	開催頻度	備考
職員会議	月1回	
運営会議	月2回	毎週水曜日の午後を実施。
ケース会議	月2回	個々の利用者ごとに支援方法等を検討。
午前引継ぎ	毎9:00	前日からの状況を引継ぎ、情報の共有を図る。
午後引継ぎ	毎15:30	当日の状況を確認、情報の共有を図る。

## 3 研修

### (1) 施設内研修

大阪府社会福祉協議会主催による大阪民間社会福祉事業振興基金助成を受け、「アウトリーチ型研修助成事業」を実施した。

助成の条件として「大阪社会福祉事業民間共済会の会員施設で2法人3施設以上によるユニットの形成」の必要があったため、障害者支援施設「四季の森」「科長の郷」「東福六万寺」「草笛の家」との合同研修とした。

研修内容についてはテーマ・講師を高井田苑から提案した上で各施設の代表者が集まり、実施方法等について検討した。

#### ① 「成年後見制度について」

大阪弁護士会井上計雄氏を講師に迎え、障害者の人権を守るという視点で「成年後見制度」についての講義を実施。必要性やその主旨、利用に至る具体的な経過やその問題点など、わかりやすく解説して頂いた。

参加者には支援者のみならず各事業所の家族もおり、講義終了後の質疑応答では具体的かつ切実な質問が挙げられ、家族の切実な思いを聞くことも出来た。

その後各事業所より3名ずつグループ検討を行った。

講師の井上氏より高齢者施設でよくある「虐待と支援のグレーゾーン」の映像を見せて頂き、その内容について自分達の支援に置き換えて検討した。苑からは3年目の職員2名と6年目の職員1名が参加。それぞれのグループの中で活発に意見を述べ有効な時間となった。

#### ② 「高齢知的障害者への支援について」

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設「のぞみの園」より事業企画部事業企画課事業企画・管理課課長補佐小島秀樹氏を講師に迎え、のぞみの園での実践通じた高齢知的障害者への支援について講義をして頂いた。

前回の研修同様、各事業所の家族も参加しており、支援者・家族からも質問が多く上がった。

どちらの研修も終了後もアンケートを実施した。

終了後、再度実行委員会を開催。各事業所の意見の集約及び情報交換会を実施した。その中でどちらの研修も時間が短かったことや、複数回の開催を希望する声が上がった。また次年度も助成金を受けて研修を実施したいという声が上がったが、事務局を受けてくれる事業所はなく、事務局をどのように運営していくのかがアウトリーチ型研修を今後も実施していく上での課題であると思われる。

また今年度は、人権研修として正規・非常勤問わず全職員を対象とした人権研修を行った。内容としては武田塾が生まれた歴史的な背景と武田慎治郎氏の思いや理念を確認することができた。また後半は、以前高井田苑で起こった虐待事案を取り上げ、なぜそこに至ったのか、どう立て直してきたのかを知ることで、あらためて専門性や支援力の重要性を感じることができた。

## (2) 施設外研修 (支援の部)

日時	研修内容
7/18	様々な人権問題に関する研修会
8/1・10	福祉職員研修「施設長等運営管理職員」
9/14・15	全国社会福祉法人経営者大会
1/19	機関研修会
2/15	「知的障がいのある方の生活を守る為に」

### 年間継続研修

- 地域支援部会（グループホーム） 7/11 9/23 11/15 3/8  
10/20（施設見学） 1/16（学習会）
- 地域支援部会（短期入所） 7/29 10/25
- 障害者支援施設部会 幹事会 5/11 6/5 8/4 10/5 11/21 1/26
- 平成 29 年度大阪府強度行動障がい支援者養成研修（ファシリテーター）  
（基礎研修）（実践研修）  
9月と12月にそれぞれ1回ずつ 計2回
- 平成 29 年度強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）（実践研修）  
9月に2回
- 強度行動障がい支援検討会 6/1 7/20 9/26 11/22
- 柏原作業所連絡会研修会 9/8

### 実習受け入れ状況

学校名	期間	日数	男	女
佛教大学（通信課程）	平成29年10月9日～10月13日	5日		1



(介護等体験)				
佛教大学 (介護等体験)	平成29年10月16日～10月20日	5日	1	
佛教大学 (介護等体験)	平成29年10月23日 ※本人都合によりその後、辞退	1日	1	
東大阪大学	平成30年2月5日～2月19日	10日		2
東大阪大学 短期大学部	平成30年3月5日～3月16日	10日		1

### 日中一時支援・短期入所事業報告

#### 1 内容

事業認可	平成18年10月(障害者自立支援法に基づく認可)
一日最大宿泊利用人数	5名(男3名、女2名)
日中一時支援利用人数	5名
利用期間	障害者(児)受給者証に記載されている日数
担当職員	支援員を充当

#### 2 基本方針

保護者、家族の傷病等や仕事の関係、利用者本人の状況から介護が困難となった場合、また、保護者、家族の精神的、身体的レスパイトが必要な場合に短期入所サービスを提供した。

#### 3 基本の支援

利用者の個別状況に配慮しつつ基本的に入所利用者の日課に沿った支援を行った。

#### 4 日中一時支援・短期入所サービス利用状況

平成29年度日中一時支援 利用日数																
氏名	性別	市町村	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	男性	柏原市	6	3	3	2	2	3	3	2	3	3	3	0	3	30
				3	3	2	2	3	3	2	3	3	3	0	3	30
平成29年度短期入所支援 利用日数																
氏名	性別	市町村	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	女性	柏原市	2	3		5	2	3	5	1		6	3	3	3	34
B	女性	柏原市	4	4	4	4	2									19
C	男性	八尾市	6	3	3	3	3	3	3		3		3	3	3	30
				10	8	12	9	8	8	1	3	6	6	6	6	83

障害支援区分別 延べ利用日数

支援区分	2	3	4	5	6	合計
短期入所	34	0	19	0	30	83
日中一時	0	0	0	0	30	30

なお、短期入所サービスを利用希望される方の中には、激しい物壊し、自傷・他害行為等があり、個別対応が必要であると判断される場合は、やむを得ず断ることもあった。

現在の高井田苑の建物の構造上、個室対応ならびに刺激を遮断する等が難しく、強度行動障がいのある方の支援が困難と判断する。

## 平成29年度 相談支援事業報告

地域生活支援センター さんねっと

はじめに

地域生活支援センターとして、柏原市在住の障害のある方に対し、自立した生活が送れるよう支援するとともに、各種障害福祉サービス利用のための援助、調整を行った。

また、ご本人またはご家族からの依頼を受け、各種福祉サービスが円滑に受けられるよう、サービス等利用計画の作成及び適切に運用されるようモニタリングを行った。

その他、必要に応じて訪問やサービス担当者会議等、当事者を始め関係機関等との会議を行い、本人ならびにその家族の福祉の向上を図った。

### 1. 柏原市障害者支援事業

柏原市からの委託を受けている一般相談については、新規相談は13件あり、計画相談につながるケースもあった。28年度に比べて本年も虐待の事案についての緊急対応や健康上の問題、引きこもりの事案の相談件数が少なく、障害別としては、知的障害方の相談を受けることが圧倒的に多かった。

福祉サービスの利用については柏原市はじめ近隣市の事業所との関係を深め、状況を把握するなど、社会資源の開拓とサービスの向上に努めた。

#### (1) 相談支援を利用している障害者等の人数

	人員	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳	その他	28年度
障がい者	118	5	1	94	17	1	0	0	179
障がい児	9	0	0	8	0	1	0	0	14
計	127	5	1	102	17	2	0	0	0

5                      0                      1

#### (2) 支援方法

方法 年度	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子 メール	個別支援 会議	関係機関	その他	計
28 年度	213	160	40	468	135	15	2	182	1,215
29 年度	296	234	69	497	178	2	89	96	1,461

### (3) 支援内容

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援
28年度	504	196	98	369	13	252	35
29年度	738	107	82	487	11	118	9

	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
28年度	46	272	483	33	1	2,301
29年度	141	135	400	3	7	2,238

## 2. 計画相談

28年度登録者数 104人（知的障害児4、知的障害者77、身体障害者3  
精神障害者10、重複障害者11）

28年度計画作成件数 115件 モニタリング件数 201件

29年度登録者数 108人（知的障害児3、知的障害者80、身体障害者3  
精神障害者12、重複障害者 10）

29年度計画作成件数 90件 モニタリング件数 212件

昨年度同様、計画相談の登録者も100人を超え、相談員の担当件数としては限界にきつつある。しかし、計画相談の依頼に対して細やかな見守りや支援が疎かにならないように、利用者の立場に立ったニーズの聞き取りや必要に応じた介入等を行っていくことが重要なことは言うまでもない。

さらに計画相談を受ける中で、サービスの調整だけにとどまらず、生活全般に関わることが必要と思われる方もあり、そのため家庭訪問等をこまめに行うなど問題の改善に努めた。

昨年度からの引き続きで、高井田苑入所者の計画相談も受け入れており、今後地域での生活を希望されたときに円滑に進むよう、柏原市や近隣市の資源などの状況を把握し、必要に応じて情報提供できるよう努めていく。

なお、29年度の相談延べ人数は1,392人、総相談件数は2,238件（内時間外相談は58件）であった。

## 3. 当事者支援（社会貢献事業）

さんねっとの活動で大きな部分を占める社会貢献としての当事者支援活動は、よりご本人たちが主体となって活動していくことを意識していただけるように、総会という形でご本人たちが希望を発言できる場を提供している。また、ボランティアにも参加してもらうことで、普段外出する機会の少ない人も気軽に参加できる場となるよう努めた。

じゃむの会

月日	場 所	参加人数	内 容
4月8日	やまびこ園	15人	花見とバーベキューをしよう
5月14日	高井田苑	15人	高井田苑祭
6月10日	明邦ボウル	18人	ボウリング大会
7月8日	さんねっと	13人	上映会
8月12日	A-Style	13人	カラオケでストレス発散
9月9日	大寅道明寺工場	13人	かまぼこ工場見学
10月14日	天王寺動物園	13人	動物園に行こう
11月14日	明邦ボウル	12人	ボウリング大会
12月9日	すてっぷ	14人	総会&クリスマス会
1月13日	すてっぷ	19人	新年会
2月10日	ザ・ビッグエキストラ平群店	12人	買い物勉強会
3月10日	海遊館	14人	水族館に行こう

さえらの会

月日	場 所	参加人数	内 容
4月23日	さんねっと	5人	和菓子作りにチャレンジ
5月27日	さんねっと	2人	ミニプリンター作り
6月24日	さんねっと	9人	アートフラワーアレンジメント
7月22日	さんねっと	8人	ミックスジュース作り
8月19日	そば塾	6人	そば打ち体験
9月23日	さんねっと	5人	さをり織り体験
10月28日	さんねっと	9人	ハロウィンのお菓子作り
11月25日	さんねっと	7人	折紙でクリスマス作品を作る
12月23日	さんねっと	7人	クリスマスケーキをつくらう
1月26日	さんねっと	5人	初釜体験
2月24日	さんねっと	3人	簡単ストレッチ
3月24日	さんねっと	3人	コラージュ

わおんの会（第3日曜日） \*9月、11月、3月は休み

月日	場 所	参加人数	内 容
4月16日	さんねっと	4人	歌、紙芝居、カレンダー作り、楽器遊び
5月28日	さんねっと	4人	歌、紙芝居、カレンダー作り、楽器遊び
6月17日	さんねっと	4人	歌、紙芝居、カレンダー作り、楽器遊び
7月16日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、カレンダー作り、歌唱
8月20日	さんねっと	4人	歌、紙芝居、カレンダー作り、楽器遊び
10月15日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、カレンダー作り、楽器遊び
12月17日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、カレンダー作り
1月28日	さんねっと	2人	歌、紙芝居、カレンダー作り、身体活動
2月25日	さんねっと	1人	歌、紙芝居、カレンダー作り

ゆいの会（不定期）

月日	場 所	参加人数	内 容
9月9日	大寅道明寺工場	4人	工場見学

社会参加、余暇支援を目的としたじゃむの会は、外出を中心に活動を行ったが、各回10名を超える人数での参加が多く、職員・ボランティアの連携がより必要となった。

室内活動を中心としたさえらの会は、少人数での会話や趣味の広がり(サロン活動)を目的として実施した。

わおんの会は、個人の希望や状態を踏まえて、音楽療法を中心としたグループワークの機会とした。

ゆいの会はじゃむの会と合同で行うことで、保護者やご家族に参加されている方の様子も見ていただける機会となった。

# 平成29年度 居宅介護事業報告

居宅介護事業所 さんぽーと

## 1. 事業概要

障害者総合支援法に基づき、障がいのある方が永く地域で生活できるよう、その多様なニーズに応えるため、様々なサービスを提供し自立の促進及び生活の向上を図るべく支援を行った。

平成24年事業開始から徐々に依頼も増え、地域にも認知されるようになってきている。今後もそれに伴えることのできるサービス体制の充実と、ヘルパーの質の向上を図っていきたい。

## 2. サービスの種類

移動支援

行動援護

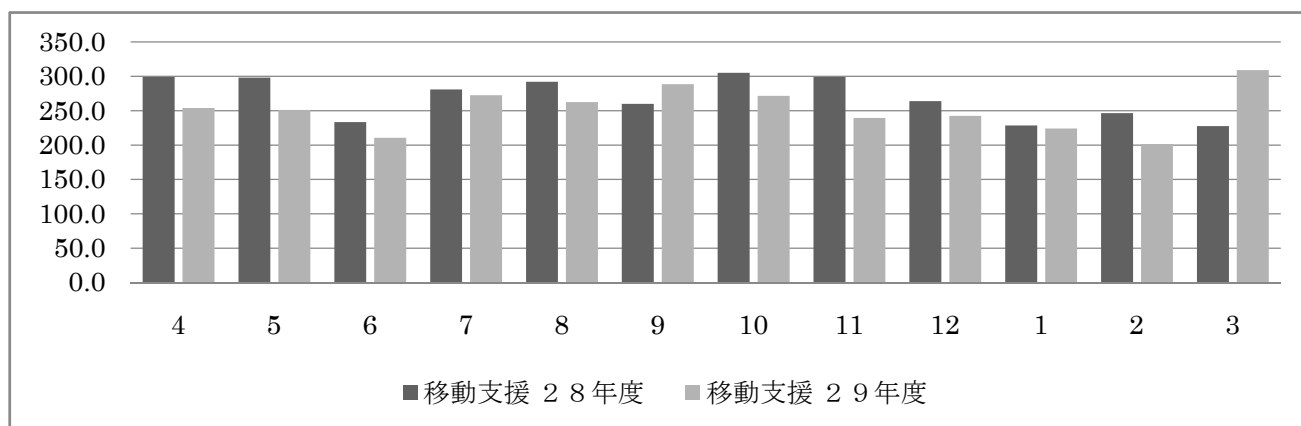
居宅介護（家事援助・身体介護・通院介助）

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計(時間)
移動支援	28年度	299.0	298.0	233.5	281.0	292.0	260.0	305.0	299.0	264.0	228.5	246.5	227.5	3234.0
	29年度	254.0	251.0	210.5	272.5	262.5	288.5	271.5	239.5	242.5	224.0	201.5	309.0	3027.0
行動援護	28年度	79.5	83.5	77	92	85.5	81.5	101	96.5	100	99	80.5	88.5	1064.0
	29年度	117	120	116	134	139	117	107	109	115	133	92.5	104	1400.5
居宅(家事)	28年度	37.5	31.5	40.5	37	32.5	33.5	38	39	38	27	21	21	396.5
	29年度	34	33	30.5	31.5	23	23	22	20.5	21	20.5	16	19	294.0
居宅(身体)	28年度	12	11.5	13	14.5	20.5	14.5	21	26.5	26	22.5	20	20	222.0
	29年度	23	28	26.5	27.5	24.5	23.5	16	18	18	15	15	20	255.0
居宅(通院)	28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	29年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

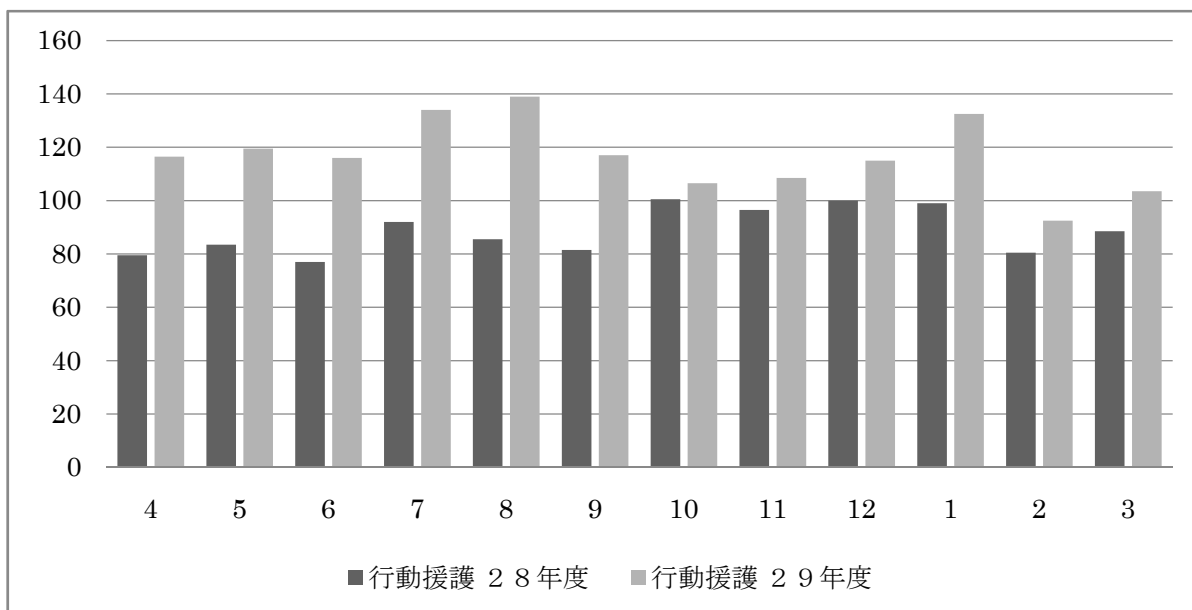
## 3. 各サービスの実績

### (1) 移動支援

他市町村の利用もあり、契約者の数は増加しているが、移動支援から行動援護に契約変更を行った利用者が複数あり、月毎の変動が大きいことが特徴的だった。

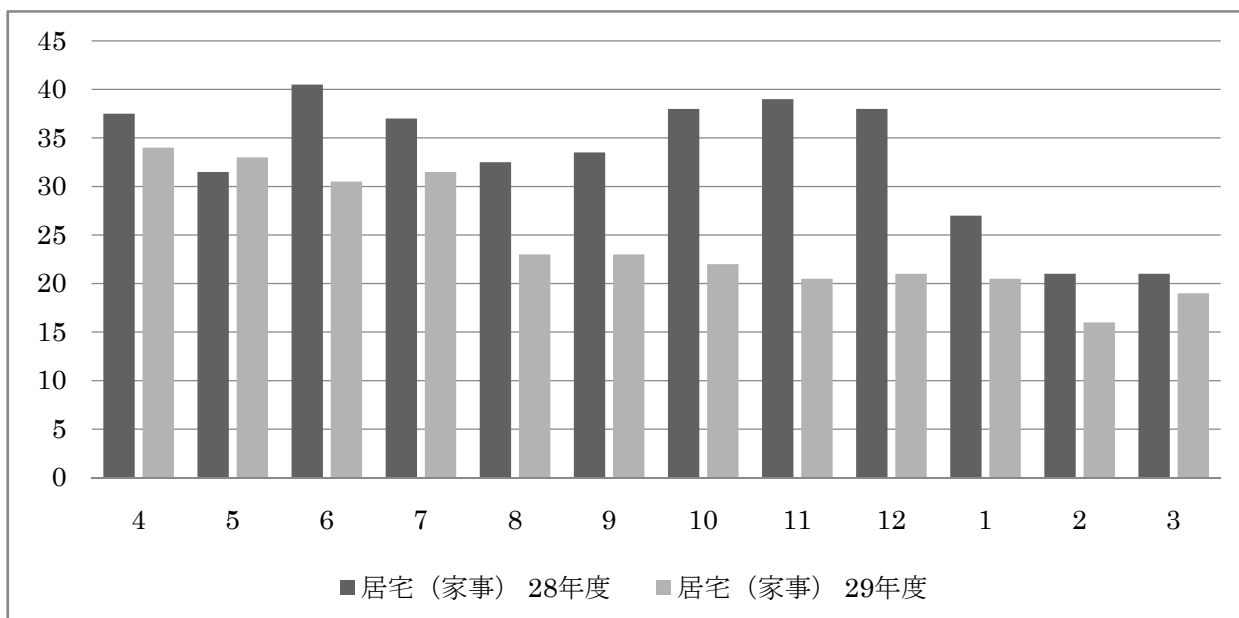


高井田苑利用者、他事業所からの紹介、移動支援から行動援護への契約変更等により、利用者は増加傾向にあった。



### (3) 居宅介護（家事援助）

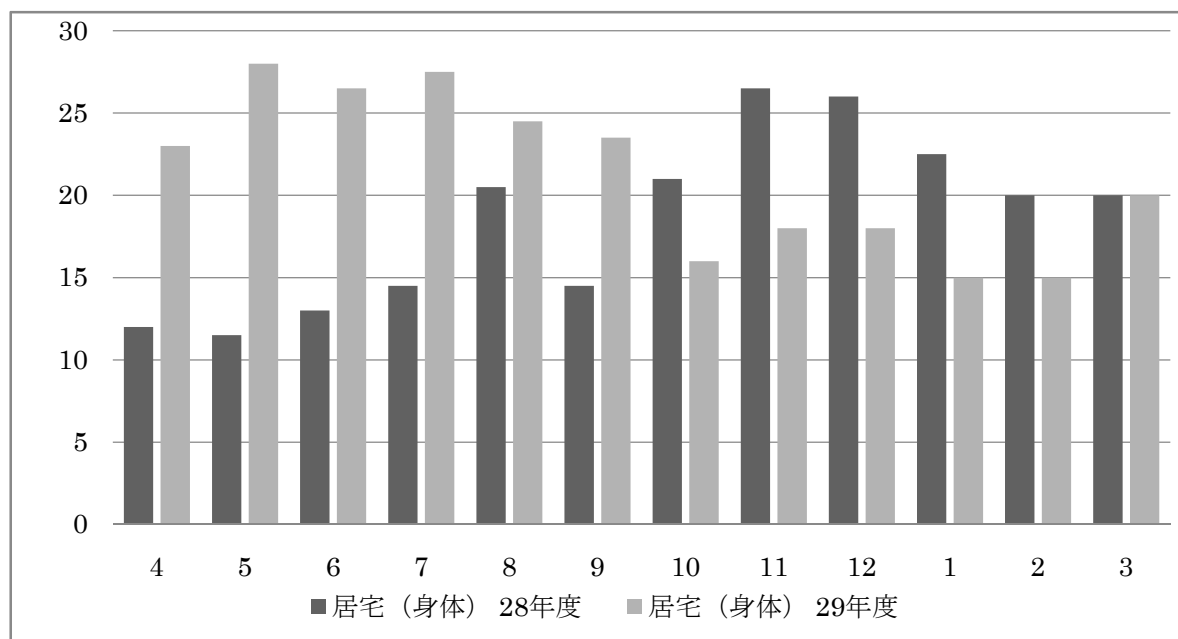
利用者数、利用時間ともが減少傾向にある。同種の事業所が増えたこともあり、今後とも減少傾向を示すと思われる。



### (4) 居宅介護（身体介護）



利用時間の総数では前年度より増加がみられるが、30年度からは利用者の転居に伴い総利用時間の実績は減少が予想される。



#### (5) 居宅介護（通院介助）

前年度と同じく通院に係る支援の実績はあるものの、すべてを行動援護で行っているため、通院介助としての29年度の実績はなかった。

#### 4. その他

平成29年度は、新たに4名の登録ヘルパーと契約を行ったが、大学卒業や就職等の理由から、ヘルパー総数は15名となり前年度比で5名減となった。

現任のヘルパーに対しては、人権に関する研修や、実践に即した勉強会、ケース会議等を定期的に行い、資質の向上を図るとともに、研修等に参加できないヘルパーに対しては書面によるレポート式の研修も検討している。

今後、行動援護の依頼はますます増加することが予想されるため、要望に対して適切な派遣ができるようヘルパーの確保が喫緊の課題となっている。このため、引き続き積極的な募集活動(HP、近隣の広告チラシ、近隣の大学、シルバー人材等)を行うと共に、資質向上に向けて、定期的な勉強会を行いながら事業所全体の底上げをめざしていく。

# 平成29年度 共同生活援助事業報告

共同生活援助 ホームにじ

## I. 利用者支援の状況

### 1. 入居者の状況

定員 12名 平成29年3月31日現在 在籍 11名(男性6名、女性5名)

	性別	年齢	障害支援区分	実施機関	住居	日中活動
1	男性	41	4	柏原市	ホームにじ	高井田苑すてっぷ
2	男性	43	4	柏原市	ホームにじ	高井田苑
3	女性	38	4	柏原市	ホームにじ	高井田苑すてっぷ
4	女性	45	6	八尾市	ホームにじ	高井田苑
5	男性	49	4	柏原市	ホームそら	高井田苑
6	男性	46	5	柏原市	ホームそら	高井田苑すてっぷ
7	女性	35	4	柏原市	ホームそら	高井田苑すてっぷ
8	女性	51	6	八尾市	ホームそら	高井田苑すてっぷ
9	男性	30	2	柏原市	ホームはれ	夢工房くるみ
10	男性	25	5	八尾市	ホームはれ	高井田苑すてっぷ
11	女性	29	5	柏原市	ホームはれ	風の森
12	男性	46	5	松原市	ホームはれ	高井田苑すてっぷ

ホームはれを利用されていた方が医療的なケアが必要となり、ホームでは十分な支援を継続していくことが困難との判断から、高井田苑で引き続き支援を行うこととし、新たに高井田苑より体験利用を経て12月より正式利用となる。

### 2. 健康管理

高井田苑の生活介護の利用者は高井田苑の他利用者とともに定期健康診断は年2回、  
歯科健診は年1回実施した。11月にインフルエンザの予防接種を行う。

他法人の日中サービスを利用している利用者はそれぞれの事業所の健康診断とインフ  
ルエンザの予防接種を行う。

毎月25日に月1回の体重測定を実施し、地域の医療機関と連携を取りながら、健康管理に努めた。

### 3. 栄養管理

普段の夕食と休日の昼食はタイハイ株式会社のケアホームメニューを利用し、栄養計算された食事を提供している。

朝食は世話人を中心に購入した食材を調理して提供している。

### 4. 安全管理

ホームには3戸とも感知器、消防署への火災通報設備を設置、避難誘導灯、消火器を設置し11月に

フジタカ防災設備に依頼し消防設備点検を行なっている。

年2回、火災を想定した避難訓練を行う。

## Ⅱ. 職員体制

### 1. 職員数

職名	施設長	サービス 管理責任者	生活 支援員	世話人	事務員	合計
常勤	1(兼務)	1			3(兼務)	5
非常勤			3	12		15

### 2. 会議の運営

毎月ホームはれが第2火曜日、ホームにじが第3火曜日、ホームそら第4火曜日に管理者とサービス管理責任者と世話人が参加し、9:30~11:00で世話人会議を開催。

運営上課題となる事項や利用者支援に関わる問題を検討し、また情報の共有を図った。

### 3. 研修

管理者による人権研修を春に行う。

高井田苑が講師に大阪市立大学三田氏を招いて実施したアウトリーチ研修に管理者、サービス管理責任者と世話人が参加し人権について学習する。

外部が実施する研修では柏原市自立支援協議会くらし部会主催の職員交流会に4名の生活支援員と世話人が参加し、社会福祉法人障友会の見学を通じ他事業所の職員との交流し日常の業務の参考にした。

## Ⅲ. 余暇支援

### 1. 移動支援・行動援護サービスの利用

男性6名、女性4名がさんぼーとの移動支援、行動援護サービスを利用し、休日に外出し、各自の希望する場所に出掛けたり、買い物に出掛けたりしている。

### 2. 集まれグループホームへの参加

昨年度に続き大阪府障害児者生活サポート協会主催の集まれグループホームに、男性2名女性2名の利用者が生活支援員と世話人の引率で参加する。

### 3. じゃむの会、さえらの会に参加

地域生活支援センターさんねっとのじゃむの会、さえらの会にホームにじの利用者が不定期であるが参加し、地域にお住まい当事者の方と交流を図る。